新年および就任のご挨拶

一般社団法人情報通信技術委員会　代表理事専務理事　岩田　秀行

新年あけましておめでとうございます。この度、代表理事専務理事に就任いたしました岩田秀行と申します。新年のご挨拶とともに就任のご挨拶をさせて頂きます。コロナ禍の大変不自由な環境の中におきましても、TTC の標準化活動に対するご理解と持続的なご協力を賜り、誠に有難うございます。

昨年の年初は、ターゲットイヤーとして東京オリンピック・パラリンピックの開催や 5G 移動通信の商用サービス開始等により、賑わう一年を予想されていたと思います。TTC として重要なイベントと捉えている４年毎に開催される ITU-T の世界電気通信標準化総会（WTSA）は、2020 年 11 月から 2022 年３月に延期になりました。

想定外の一年でしたが、コロナ禍におけるニューノーマル（新たな生活形態）において、働き方改革等で推奨されてきたテレワークが一気に日常化され、標準化に関連する国際会議もオンライン会合に変更されました。他国の参加者に比べ、自宅から安定的にオンラインで参加できる日本のブロードバンドネットワーク環境には、会員企業の皆様の努力により築かれた情報通信の基盤となるネットワークの相互接続、サービスの安定性、品質や安全の確保の標準化が多大に貢献されていると思います。また、デジタルトランスフォーメーション（DX）も当初描いていたストーリーと異なる形で促進されている状況かと思います。テレワークでの作業や手続きには、文書等のデジタル化が必須ですし、手続きの承認プロセスも印鑑を用いない承認に移りつつあります。TTC では、昨年３月以降、専門委員会等の委員会、セミナーは殆んどオンラインで実施しております。オンライン会合でも、対面の会議形式と変わらない活動を行って頂いており、会場での参加が難しかった東京圏以外からのご参加も頂けるようになりました。アフターコロナでもオンラインと対面のハイブリッド会合で実施できる環境を継続していきたいと考えております。WTO（世界貿易機構：World Trade Organization）の TBT 協定（貿易の技術的障害に関する協定：Agreement on Technical Barriers to Trade）では以下の国際標準であるべき６原則を規定しています。

（１）透明性：Transparency
（２）開放性：Openness
（３）公平性と合意性：Impartiality and Consensus
（４）効率性と市場適合性：Effectiveness and Relevance
（５）一貫性：Coherence
（６）開発途上国配慮：Development dimension

TTC を運営するにあたり６原則を意識していきたいと考えております。（１）透明性、（２）開放性、（３）公平性と合意性の項に共通して中立的要素が示していると思います。TTC は、中立性を保つ組織であります。会員企業の方には個社でできないことを、会員内外企業と連携して実現し、海外政府機関との関係づくり等 TTC の中立的立場を積極的に活用して頂ければと思います。

TTC の活動は専門委員会での標準化の策定だけではありません。企画戦略委員を中心に、AI、DX、e スポーツ等の新規分野のオンラインセミナーを企画し新たな標準化課題の発掘や、技術調査アドバイザーグループでは、毎年新たに設立されたフォーラム・コンソーシアムの調査を行って、最新の標準化の潮流の情報を共有させて頂いています。４月から担当している業際イノベーション本部ではワーキングパーティ（WP）の活動を通じて、標準化を含めたスタートアップ的な活動をすることができます。会員外での参加や、オープン＆クローズの選択も可能ですので、仲間づくりの場として活用頂ければと思います。コロナ禍においては、事務局側として従来行っていた会議室の提供や会合準

備の支援に加えて、オンライン会合に必要な環境の提供も行っています。さらに、異業種とのマッチング・橋渡しの活動を行っております。異なる産業分野においてICTの利活用が進む中で、異業種企業と会員企業との間や、業界団体間のギャップを解消するブリッジ的な役割を果たしていきたいと考えております。

（6）開発途上国配慮の面では、2008年から約5年間の普及推進委員会の活動を継承したBSG専門委員会では、APTや総務省の支援のもとに新興国の政府や企業、大学と会員企業とのマッチング活動として、ICTを利活用した社会課題解決ソリューションのパイロットプロジェクトや事例普及のための利用標準（ハンドブック）の策定をASTAPで実施してきました。具体的には、マレーシア、フィリピン、インドネシアの大学で、異業種のデータを組み合わせて社会課題を解決するアイディアソンイベントを実施しています。本年はアジア地域での女性中心の農業コミュニティのイベントを予定しています。標準化だけでなく国内外のダイバーシティなグローバル人材の育成に貢献していきます。東南アジアにおける先行的な自社製品の販売や、ソリューションの実証実験・パイロットプロジェクトの実施、海外事業所での人材確保のための機会や若手のグローバル人材育成プログラムなどに積極的に活用して頂ければと思います。

TTCの柱の一つである国連が掲げる持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向け、欠かせないのがアクセシビリティを考慮したICTの実現です。業際イノベーション本部のWPを活用して専門家の方々と議論し、昨年6月にマルチメディア応用専門委員会で制定された「遠隔手話通訳サービス・システム仕様書」（TS-1024）は、手話通訳者が通信手段を利用して遠隔から通訳するシステムの仕様です。COVID-19の発生により、ろうあ者等が保健所へ相談に行く際に、手話通訳者の同行困難を解消するものです。TTCではアクセシビリティSWGで引き続き関連の課題解決に向けた活動を推進してまいります。また、SDGsに対して、TTC国際連携アドバイザーグループのメンバーを中心にITU-Tに対して、研究課題を検討する際17の開発目標の紐づけを意識するような提案を行っています。

前任の前田洋一氏にはITU-Tとの強固な連携のもとにTTCの活動を牽引なされてきました。10年間のご活躍に敬意を称します。WTSA-20は2022年3月に延期されましたが、前田氏には引き続き日本団を牽引し、ご指導ご鞭撻を頂きたくお願いしたいと思っております。また、12月に総務省は「Beyond5G新経営戦略センタ」を設立しました。戦略的な標準化活動の推進に向けて、TTCとして貢献していきたいと思います。

TTCは昨年10月に35周年を迎えました。国内の標準化開発機関（SDO）としては米国のATISの次に設立された伝統ある国内標準化機関です。ITU等のレガシー標準機関による勧告化、フォーラムやコンソーシアムの業界標準策定やプロモーション、OSSコミュニティによるインプリ標準など標準化の場や手法が多様化しています。また、標準化の流れも変わってきています。研究部門で開発した技術ベースの標準化から、事業部門がビジネス展開で必要な標準要求を出し、標準化だけでなくプロモーションや実証実験を行うビジネスベースの形が主流になってきています。コロナ禍においては、ニューノーマルを前提としたさらなる変革が求められています。個社だけでなく、仲間づくりでビジネス展開を行う潮流の中で、自社の標準化、知財をバランス良く駆使したオープン・クローズ戦略が欠かせません。新しいビジネスを創出し、グローバル展開を加速させる国際標準の活用はますます重要性を増しています。

COVID-19の影響による某朝ドラのストーリーの臨機応変な変更と同じように、情報通信分野の標準化機関として、（4）効率性と市場適合性、グローバルの潮流に柔軟に対応し、ダイバーシティを意識し、主役である会員企業の皆様が活躍できるように運営してまいります。地元の上杉鷹山が家臣与えた教訓“為せば成る、為さねば成らぬ何事も、成らぬは人の為さぬなりけり”を座右の銘にしておりますが、特に最後のフレーズが“お気に入り”です。（5）一貫性、熱意を持ってチャレンジして参りますので本年もご指導ご鞭撻の方宜しく御願いたします。

ちなみに、下の写真はAPTパイロットプロジェクトを実施したインドネシア西スマトラの伝統🐃レース風景です。バランス感覚を取得するために参加チャレンジを試みましたが地元の方々に阻止されてしまいました。